

| | | | | |
|-------------------------|--|------|--|----------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数) | 国語 (書写を含む) (2 単位) | | 3. 科目番号 | SJMP1281 SJMP2381 SJMP2381 |
| 2. 授業担当教員 | 小本 そのみ | | | |
| 4. 授業形態 | 講義 演習 討議 発表 | | 5. 開講学期 | 春期/秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | | | | |
| 7. 講義概要 | 国語 (日本語) 能力の養成・強化を主とする。発音・アクセント・方言等の日本語の特質や語法・表現技法に至るまで、日本語の基礎的知識を習得するとともに、語彙力や文章表現力の養成に努める。また幼児の発達段階を踏まえ、実際の絵本等児童文化教材の分析から、国語 (日本語) の使用方法を実感的に理解する。どのような指導を行えば言語能力を向上させていくことができるのか、具体的な教材を用いることで言語能力を高める。 | | | |
| 8. 学習目標 | 1, 国語科教育の歴史や意義を踏まえ、国語 (日本語) 能力を高める。 2, 言葉の機能や教科としての国語の特質を理解し、説明できるようになる。 3, 話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につける。 | | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 日本語や国語科教育に関する基礎的な知識と指導者としてふさわしい言語能力を身につけるための一環として、以下の課題の提出を求める。 課題 1. 方言に関するレポート (第 8 回提出予定) 課題 2. 毛筆の練習用紙 (第 10 回提出予定) 課題 3. 硬筆の練習用紙 (第 12 回提出予定) 課題 4. 語彙に関する発表用レジュメ (第 11 回提出予定) | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 配布するプリント等を教材とする 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社、2018。 ※ 参考文献等は、授業内に適宜提示する。 | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 1 国語 (日本語) 能力を高め、言葉の機能や教科としての国語の特質を理解したか。 2 話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につけることができたか。 ○評定の方法 授業態度 50% 提出物等 30% 期末試験 20% 上記のほか、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の条件である。 | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 言語は論理や思考などの知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤になると言われています。こうした言語の力、感性・情緒を育むことができる指導者になるために、本科目では、日本語という言語、そして日本語という言語の使い手としての自分と向き合います。子どもたちの言語能力を向上させるために、自分の言語能力を高めることが重要であるという自覚をもって、事前事後学習も含めて、授業内の言語活動に積極的に取り組んでください。本科目の言語活動が、日本語についての自分なりの考えを深め、指導者にふさわしい言語能力を身につけることにつながると考えます。 *座席は指定とします。 | | | |
| 13. オフィスアワー | 授業の前後。 | | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | | |
| 第 1 回 | オリエンテーション (シラバスの確認、授業展開の見直し) | 事前学習 | シラバスに目を通し、授業の概略を把握すること。 | |
| | | 事後学習 | 「日本語」と「国語」の違い、「共通語」と「標準語」の違いをまとめること。 | |
| 第 2 回 | 国語科教育の歴史と意義について学ぶ。 | 事前学習 | 国語科でどのようなことを学習してきたか振り返ること。 | |
| | | 事後学習 | 伝統的な言語文化に関する事項を学ぶ意義についてまとめること。 | |
| 第 3 回 | 外国語の中に入っていた日本語や国内外の日本語教育の現状について学ぶ。 | 事前学習 | 日本語教育と国語科教育の違いについて調べること。 | |
| | | 事後学習 | 子どもの日本語教育についての自分の考えをまとめること。 | |
| 第 4 回 | 「音声」「音韻」「音節」等、日本語の発音や音の仕組みについて学ぶ。 | 事前学習 | 単音と音素、音節とモーラ、特殊音素など重要語句の意味を調べること。 | |
| | | 事後学習 | 音声と音韻について理解したことをまとめること。 | |
| 第 5 回 | 日本語のアクセントの機能、型、表記法について学ぶ。 | 事前学習 | アクセントの滝と核について調べること。 | |
| | | 事後学習 | 日本語のアクセントの特徴をまとめること。 | |
| 第 6 回 | 文字の種類や漢字に関する基礎的な知識と語彙の拡充を図る。 | 事前学習 | 漢字の成り立ちについて調べること。 | |
| | | 事後学習 | 漢字の 4 つの造字法について、具体的な漢字を例に挙げながら分類してまとめること。 | |
| 第 7 回 | 万葉仮名、平仮名、片仮名についての知識の拡充を図る。 | 事前学習 | 平仮名の成り立ちについて調べること。 | |
| | | 事後学習 | 仮名について得た知識をまとめること。 方言に関するレポートを書くこと。 *課題 1 | |

| | | | |
|------|--|------|---|
| 第8回 | ローマ字の綴り方や現代の表記法の原則に関する基礎的理解を図る。 | 事前学習 | ローマ字の歴史について調べること。 |
| | | 事後学習 | 訓令式、日本式、ヘボン式の特徴についてまとめること。 |
| 第9回 | 書き順や運筆に注意して、毛筆で仮名や漢字を書く。 | 事前学習 | 筆ペンを準備して、試し書きをすること。 |
| | | 事後学習 | 配布された練習用紙に練習すること。 *課題2 |
| 第10回 | 正しい鉛筆の持ち方・姿勢をはじめとした硬筆入門期の指導について学ぶ。 | 事前学習 | 正しい鉛筆の持ち方を確認すること。 |
| | | 事後学習 | 配布された練習用紙に練習すること。 *課題3 |
| 第11回 | 語や語彙の意味、語構成と造語法、語彙の意味関係について調べたことをグループで発表する。 | 事前学習 | 語彙についての担当部分を簡潔にまとめ、発表用レジュメを作成すること。 *課題4 |
| | | 事後学習 | 語構成と造語法についてまとめること。 |
| 第12回 | 学校文法を中心とした文法①「文の構造や用言」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。 | 事前学習 | 中学校で習った品詞について確認しておくこと。 |
| | | 事後学習 | 品詞分類表に書き込みをし、表を完成させること。 |
| 第13回 | 学校文法を中心とした文法②「自立語と付属語」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。 | 事前学習 | 品詞の役割を確認すること。 |
| | | 事後学習 | 自立語と付属語についてまとめること。 |
| 第14回 | 待遇表現、敬語表現について学ぶ | 事前学習 | 待遇表現の分類について調べること。 |
| | | 事後学習 | 敬語の種類をまとめること。 |
| 第15回 | <p>実際場面で使えるように敬語表現の練習をする。</p> <p>本科目での学びを振り返り、自分にとって日本語とはどのようなものなのか考察する。</p> <p>授業評価</p> | 事前学習 | 敬語の表現形式について調べること。 |
| | | 事後学習 | 日本語という言語と向き合ったことによる自分の変化について考え、まとめること。 |
| 期末試験 | | | |